



## 津田左右吉物語②

### とおる 森達先生との素晴らしい出会い

明治12年、6歳で文明小学校(今の下米田小学校)に入学した左右吉は、早くから森先生に眼をかけられ、授業のほかに余課として漢籍の講義を受けました。

森先生は明治10年岐阜師範学校の卒業で、元崎門派きもんは細野要齊の門人。温厚な性格のうえ詩も作り、画も描くという教養豊かな教師でした。その指導は、歴史や地理の話に関連した和歌や物語を引用し、ときにはヨーロッパの歴史上の人

物の話もするなど、左右吉にとってはことのほか興味深いものでした。現在と違って学課の大部分は本を読むことであり、その文字の意味を知るだけでした。

左右吉は子供のころを思い出し、「『日本外史』は面白かった。森先生に習った人物の逸話や詩、歌はいつまでも忘れずにいて、ことごとしい言い方をすると、それが後の私の生活の基調の一つとなった…」と述べています。



▲森達先生